

日独協会秋祭り in 東京 参加報告

日時： 2014 年 11 月 24 日(日)

場所： ドイツ連邦共和国大使公邸

住所： 東京都港区南麻布 4-5-10

昨年、西日本日独協会・青年部会員を代表し、駐日ドイツ連邦共和国大使 ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン氏主催の「日独協会秋祭り」に、参加いたしました。

秋祭りは、毎年東京の日独協会の会員の皆様を中心となって行われている催しだそうです。今回は初の試みとして、大使の意向により、日本全国にある日独友好関連の団体の中から青年会員が招待されました。



大使館公邸は、麻布の閑静な住宅街にあり、周辺には各国の駐日大使館・公邸が点在し、輸入品を取りそろえたスーパーなども見られました。ドイツ大使公邸は各国の大使館・公邸と比べ、嚴重な構えをしていました。公邸を囲むように高い壁がそびえ立ち、門には警備室が備えてありました。しかし、壁には現代アートが描かれている部分や、ドイツの観光名所を紹介する写真がプリントされている部分、日独友好関連の催しを紹介する掲示板などが設置されていて、明るく親しみやすい印象を受けました。西日本日独協会にも催しを紹介をするこのような掲示板があればいいなと感心しました。



門の中には白い壁の洋風の建物があり、そこで立食式のパーティーが開催されました。中庭では、日本庭園が広がっており、紅葉が彩りを添えていました。日独友好をあらわしているようで、感動しました。

駐日大使は会の開始の際、「日本全国に日独友好を結ぶ協会があり、活動を活発に行っているということに驚き、また感動している。また、今回急な呼びかけにも関わらず、遠方からも青年会員の皆さんが参加してくださったことに感謝している。未来を見据え、青年会員がリーダーシップをとっていただきたい。今後の活動にも期待している。」とおっしゃいました。

東京日独協会理事は、「昔、戦争をきっかけに、日本人とドイツ人の一般市民の中で交流が生まれ、いつしか個人通しの親密な関係が生まれた。現代では、戦争がなくてもつながる方法は沢山ある。若い力に期待すると共に、年配の世代には気持ちはずっと若いままで活動に参加してもらいたい。」とおっしゃいました。



東京日独協会理事のはからいにより、駐日大使と直接お話しする機会がありました。大使は、「随分遠くから参加してくれたそうだね。大変だったでしょう。」と労いの言葉をくださいました。また、西日本日独協会・青年部の活動を存じていらっやいました。「西日本は青年会員が活発に活動しているそうだね。とても感心しているよ。どんな雰囲気なの？」と質問されたので、私は **Stammtisch**(定例懇談会)、**Marktplatz**(ドイツの各地域についての講演・勉強会)、バス・ハイクでの日本文化勉強会についてお話ししました。「青年部での若者の積極的な参加はまだまだ少数で、以前は若者だった方が大勢参加してくださっていますよ」と、私が冗談めかしてお話すると、大使は笑いながら、「そういう方たちも大事にして欲しい。若い世代の力も期待しているけれど、

年配の方との連携も重要なことだよ。」とおっしゃいました。

パーティーの食事は、大使公邸のシェフの手作りで、ジャガイモ沢山のポテトサラダ、鶏のビールトマト煮、豆のサラダ、ジャガイモのニョッキ、ザワークラウトや、デザートにはアップルパイ、ドライフルーツケーキなどのドイツ料理が並んでいました。



どれも趣向がこらしておりシェフの心遣いを感じ、美味しくいただきました。中でも印象深く思ったのはシュトレンでした。通常は、12月のクリスマスに向けて寝かせた、固めのシュトレンを少しずつ食べる習わしになっています。今回いただいたシュトレンは、出来立ての物でした。生地がやわらかく、ドライフルーツの甘味とほのかな酸味が絶妙に合っていて大変美味しかったです。

食事をいただきながら、参加されていた各県の青年会員の方とお話をしました。今回初めて知ったのは、「青年部」設立というのはとても珍しく、他の日独協会には設立されていないということでした。また、皆さんが西日本日独協会・青年部の活動に興味を持ってくださっていることに驚きました。



このような貴重な機会をご支援いただきありがとうございました。

沢山の方と出会い、各県の協会の特色と活動を教えていただき、大変勉強になりました。そして、日独協会の皆さんの期待を、西日本日独協会・青年部が背負っていることに気づき、励みに感じ、会員であることを誇らしく思うと共に、身が引き締まる思いでした。

今後は、青年部ならではの催しを企画するなど色々なことに積極的に活動し、西日本での日独友好の輪を広げていけたらと思います。また、西日本日独協会の先輩会員の方々との連携・親交をさらに深めていくことも大事に考え、協会会員同士の和をさらに強くなやかにしていけるよう励みたいと思います。

西日本日独協会 青年部会員
緒方 愛実